

たまねぎレポート【第429号】



令和5年7月26日

阪南青果株式会社

社内報

6月の日本の天候は、気温は北・東日本でかなり高く、西日本で高くなった。降水量は東日本の日本海側と東日本の太平洋側でかなり多く、北日本の日本海側と北・西日本の太平洋側で多くなった。日照時間は北日本の太平洋側で多くなった。北海道では月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は多かった。7月に入り、秋田を始め東北地方が線状降水帯による大雨に見舞われ大水害が発生した。梅雨明けは平年と、変わらない地域や九州地方などは大幅な遅れとなり、かなりの差が発生した。

気象庁の8～10月の3か月予報では、平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率70%。降水量は、北・東・西日本で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨の日が多い。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の太平洋側と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北・東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の6月の野菜の販売量は、209,758トン前年比101%（前月比95%）平均単価はkg ¥249前年比98%（前月比101%）。市場別には多少の差があるものの、総じては販売量は前年比微増、単価は前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比111%、平均単価はkg ¥239前年比92%。東京市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥266前年比100%。名古屋市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥236前年比95%。大阪本場の販売量は前年比103%、平均単価はkg ¥246前年比98%。福岡市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg ¥185前年比100%となっている。

建値市場の6月の玉葱の販売量は21,549トンで前年比115%、（前月比

83%)、平均単価はkg¥96前年比47%(前月比100%)となっている。市場別では、札幌市場の販売量は1,944トン前年比136%、平均単価はkg¥109前年比47%。東京市場の販売量は9,596トン前年比113%、平均単価はkg¥96前年比46%。名古屋市場の販売量は4,264トン前年比99%、平均単価はkg¥95前年比50%。大阪本場の販売量は3,529トン前年比127%、平均単価はkg¥95前年比46%。福岡市場の販売量は2,216トン前年比122%、平均単価はkg¥89前年比47%となっている。

東京都中央卸売市場の6月の野菜の入荷量は、115,977トン前年比101%(前月比93%)。平均単価はkg¥266前年比100%(前月比103%)。旬別では上旬がkg¥252で前年比93%、中旬が¥266で前年比96%、下旬が¥284で前年比113%、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、タマネギが前年比113%、ニンジンも113%、レタスが110%、ピーマンが105%、ネギが104%など8品目。入荷が前年比減の品目は、サトイモの前年比71%を始め、キャベツが85%、ナマシイタケが89%、ナスが94%、バレイショが96%など7品目。価格が前年比高の品目は、サトイモがkg¥664で前年比131%、キュウリがkg¥130で130%、バレイショがkg¥153で126%、ナマシイタケがkg¥1,013で118%、キャベツがkg¥96で113%など9品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥96で前年比46%、トマトがkg¥294で88%、ダイコンもkg¥92で88%、レタスがkg¥137で90%、ニンジンがkg¥140で91%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	115,977	100.5	93.5	266	99.8	102.7
たまねぎ	9,596	113.2	79.0	96	45.8	96.0
キャベツ	14,269	85.4	83.6	95	112.8	113.1
はくさい	6,195	101.8	98.1	65	92.7	76.5
だいこん	6,855	100.8	83.3	92	88.2	101.1
にんじん	6,255	112.8	79.2	140	90.5	86.4
ばれいしょ	7,117	95.8	73.9	153	126.3	96.8
レタス	8,256	110.0	115.0	137	89.7	87.3
ねぎ	3,623	104.4	100.5	437	101.0	104.8
トマト	7,386	101.9	94.2	294	88.1	89.6
きゅうり	6,720	97.3	83.8	286	130.2	120.7
かぼちゃ	2,264	111.4	201.8	248	92.3	48.5
ながいも	692	76.9	107.5	439	151.7	102.3
れんこん	179	158.7	40.7	1,022	69.2	190.3
にんにく	198	106.9	77.0	818	91.0	100.5

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷販売量は9,596トン前年比113%（前月比79%）。主力は佐賀物で入荷量は4,104トン前年比138%、占有率は43%で前年比8ポイントアップ。兵庫物は2,023トン前年比95%、占有率21%前年比4ポイントダウン。香川物は935トン前年比111%、占有率10%で前年と同じ。北海物は749トン前年比267%、占有率8%前年比5ポイ

ントアップ。栃木物は384トン 前年比75%、占有率4%で前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg ¥ 96前年比46%(前月比96%)。産地別平均単価は、佐賀物はkg ¥ 93前年比42%、兵庫物はkg ¥ 106前年比47%。香川物はkg ¥ 96前年比43%。北海物はkg ¥ 120で前年比63%。栃木物はkg ¥ 74前年比41%となっている。

7月に入って、佐賀物はJA白石の除湿乾燥品の入荷が主力となったが、品質が今ひとつに加え、撰果機の故障と連日の大雨でJRのコンテナ一便が使えず、入荷はトラック便で、数量的には半減状態となった。入荷の主力は兵庫物となったものの、希望値が高く荷動きは今ひとつであった。昨今のは佐賀の除湿乾燥物とレギュラー品だが、いずれも品質に難があり、人気離散の状態である。兵庫物は産地の強気に追随し、L ¥ 3,000の販売に努めて来たが、月末から北海物が入荷が始まる予想で、兵庫物の高値は是正されると見ている。今年の府県産は豊作で肥大球が多く、2Lの販売に苦労したが、此処に来てLの動きが鈍化している。

7月1日～20日の玉葱の販売量は5,484トン前年比105%、平均単価はkg ¥ 120前年比72%。産地別の販売量と平均単価は兵庫物が2,607トン前年比113%、平均単価はkg ¥ 123前年比70%。佐賀物は1,080トン前年比101%、平均単価はkg ¥ 124前年比72%。香川物は509トン前年比178%、平均単価はkg ¥ 119前年比62%。愛知物は190トン前年比78%、平均単価はkg ¥ 107前年比72%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は4,264トン前年比99%(前月比84%)で前年比、前月比ともに減となっている。主力は兵庫物と地場の愛知物で、兵庫物は1,762トン前年比86%、占有率は41%で前年比7%ダウ

ン。愛知物は1,728トン前年比110%、占有率は41%で前年比4ポイントアップ。北海物は628トン前年比132%、占有率15%で前年比4ポイントアップ。総平均単価はkg¥95前年比50%(前月比107%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥106前年比48%。愛知物はkg¥84前年比45%。北海物はkg¥75前年比117%となっている。

7月に入って、愛知物は終盤を迎え兵庫物主力の販売となった。今年の愛知物は、品質的に難があり、売れ行き不振が続き、兵庫物との価格差が開いた。兵庫物は産地の希望値が高く、平凡な荷動きが続いた。愛知・兵庫物とも販売量は伸びず、品不足にはならなかった。昨今では、兵庫物だけの日があり、産地の希望価格を目処の販売を続けている。酷暑の所為もあり荷動きは今ひとつである。盆前に拘わらず予約注文は少ない。月末から北海物の入荷が予定されているが、手取りL大¥2,800、L¥2,600の高値を要請されている。現状の販売環境からは厳しい価格帯である。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は3,529トン前年比127%(前月比94%)で前年比増、前月比減となっている。産地別の販売量は、兵庫物が2,412トン前年比127%、占有率68%で前年比1ポイントダウン。佐賀物は665トン前年比139%、占有率は19%で前年比2ポイントアップ。大阪物は144トン前年比188%、占有率4%前年比1ポイントアップ。北海物は143トン前年比358%、占有率4%前年比3ポイントアップ。愛媛物は120トン前年比54%、占有率3%前年比5ポイントダウン。総平均単価はkg¥87前年比35%(前月比109%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥98で前年比46%、佐賀物はkg¥93前年比44%。大阪物はkg¥75前年比40%。北海物はkg¥101前年比63%。愛媛物はkg¥68前年比39%。となっている。

7月に入って、入荷は減少傾向となり、荷動きは回復基調となった。主力の淡路島の産地からは値上げ要請が相次いたが、荷動きは悪くはないが、値上げを呑める程、小売り段階の売価は追随出来ず、保合状態が続いた。中旬になり卸では意図的にLの高値¥3,000の販売を試みたが、長続きはしなかった。割安の大阪、愛媛物は荷動き良く完売状態が続いた。昨今では、主力の兵庫物は、2Lは割安が受けて荷動きが良く、高値のLは荷動きが鈍く軟調、MIは入荷少なく堅調な動きとなっている。

7月1日～20日の玉葱の販売量は2039トン前年比114%、平均単価はkg¥111前年比70%。産地別の販売量と平均単価は、兵庫物が1,724トン前年比115%、平均単価はkg¥113前年比67%。佐賀物は1,09トン前年比99%、平均単価はkg¥120前年比57%。愛媛物は94トン前年比80%、平均単価はkg¥74前年比56%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は、2,216トン前年比122%(前月比103%)で、前年比、前月比ともに増となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,571トン前年比137%、占有率80%前年比17ポイントアップ。北海物は196トン前年比143%、占有率9%前年比1ポイントアップ。長崎物は192トン前年比98%、占有率9%前年比2ポイントダウン。中國物は127トン前年比62%、占有率6%前年比5ポイントダウン。総平均単価はkg¥89前年比47%(前月比91%)で前年、前月比ともに大幅安となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥89前年比41%。北海物はkg¥96前年比101%。長崎物はkg¥76前年比52%。中國物はkg¥96前年比79%となっている。

7月に入ってからの入荷は、佐賀物オンリーの日が多いなか、JA白石の撰

果機の故障で入荷は激減状態が続いた。品不足で買参人の注文に応じ切れず、対応に苦労した。昨今、佐賀物のお荷は回復したもの、品質劣化が進み人気離散。荷口に依り品質にかなりの格差があり、引き合いは鈍く、お荷減にも拘わらず品薄状態でない。盆に向けた注文も低調である。北海物の詳細な情報は入手していないが、8月第2週からお荷の予定。

7月1日～20日の玉葱の販売量は1,230トン前年比108%（前月比81%）、平均単価はkg ¥114前年比70%（前月比136%）となっている。

7月25日（火）の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量108トン 弱い

北海 20kgNT2L ¥2,200～1,800、 L大 ¥2,800～2,500、 L ¥2,800～2,500、
M ¥2,200～2,000。

【太田市場】 販売量151トン 保合

兵庫 20kgDB2L ¥2,000～1,800、 L ¥3,000～ M ¥3,000～2,800。

佐賀 20kgDB2L ¥2,000～1,700、 L ¥2,700～2,500、 M ¥2,700～2,500。

【名古屋北部市場】 販売量60トン 保合

兵庫 20kgDB2L ¥2,000～1,800、 L ¥3,000～2,800、 M ¥2,700～2,600。

【大阪本場】 販売量110トン 保合

兵庫 20kgDB2L ¥1,900～1,700、 L ¥2,800～2,600、 M ¥2,700～2,600。

兵庫 10kgDB2L ¥900 ～ 800、 L ¥1,400～1,250、 M ¥1,300～1,250。

佐賀 20kgDB2L ¥1,600～ L ¥2,800～2,600、 M ¥2,500～

大阪 10kgDB2L ¥700 ～ L ¥1,100～

【福岡市場】 販売量 170トン 保合

佐賀 10kgDB2L ¥1,000～ 900、 L ¥1,300～1,100、 M ¥1,500～1,400。

佐 賀 20kgDB2L ¥2,200～1,800、 L ¥2,600～2,200、 M ¥2,800～2,500。

供給(産地)の動き

府県産は、早生・中晩生とも予想外の豊作となったが、収穫後の天候が不順で品質低下が進行し商品化率が低下した。収穫後の産地在庫はいずれの産地も前年をかなり上回ったものの、8～9月末の出荷量は、主力産地の兵庫は前年よりかなり上回るものの、佐賀は前年並みか前年を下回り、全国的には前年と大差ないと予想されている。8月から出荷が始まる北海物も、現在の生育は順調だが、早生系は平年作をやや上回りそうだが、主力の中晩生は平年作と予想されている。

佐賀、現在の出荷は、短期貯蔵の困い物と 出荷遅れの除湿乾燥品の残量出荷で日量の出荷量は前年並みか下回っている。吊り玉は少なく、値上がり待ちのポリコン詰め(困い)の短期貯蔵も福富地区以外は少ない。今年は貯蔵時の黒煤の発生は少ないが、鱗片腐敗や心腐りが多い。品質劣化が早く、棚もち不良で市場の評価は低い。産地では、相場待ちをしていた生産者も品質低下を懸念し出荷に焦りが出ている。今年の出荷は8月盆までに終了すると予想されている。

兵庫、主産地の淡路島では、早生・中晩生とも大豊作で、7月末の在庫が多く、球肥大は良いが水膨れ傾向で品質低下が早い。7月出荷は日持ちの悪い品物から出荷しているが、平年に比べ商品化率は低い。今月に入り、先月まで市場販売が低迷していた肥大球(2L、3L)の動きが回復し助かっている。既に、冷蔵貯蔵の入庫が始まっているが、通常困い物(短期貯蔵・ストック物)も取り敢えず劣化進行の抑えに入庫したいとの意向が強く、長・短期とも入庫の申込みが多く、冷蔵業者は短期物の断りに追われている模様。今年は長期貯蔵

に向く吊り玉は少ない。

北海道産地

北海道では既に極早生の収穫・出荷が始まっている。収穫・出荷された品物を見る限り、球肥大が良好で平年作を上回りそう。肥大期を迎えた早生・中晩生の生育は順調と言われるものの、昨今の気象環境は高温で降水量が多く、日照時間が少なく、玉葱の生育にはやや不向きの状態である。気象庁の7月中旬の気象データに依ると、地域差はあるものの、平均気温は平年比2.1℃～0.7℃高く、降水量は平年比6.7 mm～40mm多く、日照時間は16h～40hも少ない。いずれの産地も玉葱の肥大期の生育には好適な気象条件とは言えない。今後の天候によるが、現状では北見地区は平年作を上回るも、他の地区は平年作が精々と推測される。小生も老齢で足腰が弱り、現時点の各産地を訪問し、見聞していないので、生育判断に今ひとつ自信がない。今後も産地の情報やデータの収集に励み作況報告に努めたい。

輸入の動き

6月の輸入量は速報値で20, 881トン前年比63%。国別では、主力の中国が19, 453トン前年比74%。ニュージーランドが1, 092トン前年比19%。オーストラリアが331トン前年比28%。日本市場は府県産の潤沢な出回りで市況安と、為替の円安で輸入物のはコスト高で、前年比大幅減となっている。

中国、現在の供給産地は江蘇省・山東省である。今シーズンの栽培面積は前年比増反との前情報があり、当初の予想では現地価格の値下がりか予想されたが、最盛期を迎えた6月の出回り量が意外に少なく、産地価格は予想に反し、日を追って値上がりしている。後続産地の甘肅省も水不足で、減反・減収が予想されている。現在の価格は、山東省産の剥き玉20kg・C&F・\$8.00 皮付き6.00 の水準である。

此の先も他の国からの輸入は円安によるコスト高と、日本マーケットが前年比安の市況が続いていることで、減少傾向が続く予想。

8月の市況見通し

7月市況は、猛暑のなか売行きが伸びず、更には府県産の品質劣化もあり、前半強保合から後半弱保合の展開となった。猛暑が続いている現状では、8月前半は需要の回復が期待薄で、北海物の出回りとともに、府県産の品質劣化で弱含みの市況推移となるものの、後半は気温の低下とともに需要が回復傾向となり、北海物主力の販売に移行。府県物から北海物へのバトンタッチが例年より早く、北海物の品質にもよるが、市況は堅調に転じると見ている。(笹野敏和記)